**「雨つ通ひ路」登場人物設定**

ダンサーさんの役作りや、傳川くんの曲作りの参考になればと思い簡単なメモを載せておきます。蛇足になるようでしたら、スル―していただいてかまいません！

ちなみに勝手につけてしまった狐の名前は中国・日本古典に出てくる響きを参考にしてイメージに合わせて当て字にしたものです。

**蒼焔（そうえん：男狐）**

静かに燃える青い焔。寡黙。長い間妖の世界に暮らしてきて、自分の暮らしに何ら疑問も抱いていないものの、物足りなさを感じている。いい加減石像で居続けるのも肩凝るし退屈で外の世界を見たいと思っているが、踏み出せずにいた。ちょっと気怠い感じの人。（←ときくんの朗らかな性格と真逆いってごめんなさい！）

外の世界に踏み込むきっかけを与えてくれたのが少女。彼女の見せてくれる日向の世界はぬくもりに包まれていて、今まで感じたことのない安らぎを得る。反面、闇の中で生きてきた自分には彼女の世界は眩しすぎて、近づけない人なのだと実感もする。彼女の純真さに惹かれたからこそ、闇に生きる自分と関わることで彼女が変わってしまうことを懼れ、寄り添いたいけれど、寄り添えない。

**緋柳（ひりゅう：女狐）**

柳のようにしなやかで妖艶。気位が高く、人間を見下している一面も。妖こそ優れた存在だと信じている。人間を毛嫌いしているのは、彼女も昔人間に恋をしたことがあるからかもしれない。

かつての恋人を心底愛していたからこそ、儚く散った恋に深く傷つけられてきた。

蒼焔は、彼女にとってたった一人の理解者で、寂れた古森の祠のなかでずっとそばにいてくれた大切な存在。永遠の時を生きる妖が、はかない命の人間に恋をすることとはどんなに苦しいことか彼女は知っているから、大事な蒼焔には自分と同じような思いをさせたくない。彼が自分のもとを離れて行ってしまうのが怖いという理由以上に、傷ついた彼を見たくないから深入りしないうちに少女と引き離そうとしている。プライドが高いから直接的にはそんな思いは伝えられないけれど、ほんとうはとっても優しい。

（きららちゃんと話していたのですが、狐の姿の二人の衣装はそれぞれ蒼色・緋色の襷がけをしたいね、と言っていました。人間の姿になるときは蒼のストール・緋の髪飾りとか差し色を入れたいです）

**少女（名前絶賛募集中！）**

何の疑いも知らないような、純真さ・清廉さの象徴のような存在。

路傍で雨に打たれていた蒼焔に傘を差しだしたのは、見知らぬ男性に近づくということでもあるし、きっと勇気のいることだったんじゃないでしょうか。だけど彼女にそうさせたのは、彼の姿に運命のような、直観的な何か惹かれるものを感じたから。恋したいなー、だけど恋ってなんだろうなー、っていうような初々しい時期？はじめは「純粋な女の子」でしかなかったんだけど、蒼焔と出会ったことで誰かを想うことの切なさとか、苦しみを知りながら成長していく。彼が自分とは違う世界に生きる存在だと知っても、この気持ちは変わらない、というしたたかさも持ち合わせている。

この出逢いを通して蒼焔以上に内面の変化を見せるのが、少女かもしれない。